

2025/2/3 (月)

朝の礼拝

聖書 詩編 4 編 5,6 節 (旧約聖書 822 頁)

怒りに震えよ、しかし罪を犯すな。
床の上で心に語り、そして鎮まれ。
義のいけにえを献げ
主に信頼せよ。

Find rest in God alone

日が沈むと共に床に入った時代のことです。闇が覆うように詩人の心に不安や恐れが襲います。しかし「罪を犯すな」、私（神）を忘れるな、離れるなという意味です。あなたを愛している、そしてあなたの敵も愛している。私があなたがたと共にいるのを忘れるなと言っています。

「床の上で心に語り」は「泣いて」とも訳せます。しかし「鎮まれ」とは不安や恐れが消えるという意味ではありません。英語では *My soul finds rest in God alone*. ともあります。泣き明かした後、沈黙のうちに心を静め、穏やかな、安らぎの時を迎えなさいと言っています。

「義のいけにえ」も何か正しいことを行いなさいという意味ではなく、英語では *O God, my defender!* ともあります。そうだ！あなた（神）が私を守っておられるんだという喜びをあらわしています。あなたは私を忘れていない、私の手を離していないと気づかされているのです。

最後に「主に信頼せよ」とありました。実はその後に [Selah] とあります。これは **exclamation mark** です。ビックリマーク (!) です。「感嘆符」ですね。主なる神の平安、安らぎはまるで奇跡のようだ、このゆとり、喜びを、沈黙の内に味わいなさいという意味です。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、立春とは言え、とても寒さの厳しい日が繰り返されます。私たちもあなたが共おられると知っていても、不安や恐れは消えず枕に涙する時もあります。どうか赤ちゃんが泣き疲れて、お母さんに抱かれ安らかな寝顔を見せるように、あなたが疲れた者、重荷を負う者を抱き、安らぎの時を迎えさせてください。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン